

酒類ガイドライン遵守推進本部だより



平成 26 年 9 月 8 日
全国卸売酒販組合中央会
酒類ガイドライン遵守推進本部

「明るい日差し無くほろにがい今年の夏」

委員 池田 正三郎

8月19日深夜、広島市北部で局地的に発生した集中豪雨で大規模な土砂崩れが発生多くの死者、行方不明者が出ました。ご冥福をお祈りします。

夏の日差しが無い雨の多い今年の夏でしたが、8月の新聞報道で気になる記事がありました。

8月21日の毎日新聞「アルコール依存症患者全国で100万人、特に女性患者急増は深刻」の見出し。背景に女性の消費拡大を狙う酒類業界、飲食店、メーカーのシェア競争があるとの記事。ビールメーカーのシェア競争、広告の有り方、卸、小売の行きすぎた安売りひとつの過度期ではないかと考えさせられました。

もう一つは8月8日財務省が発表した「国が背負う借金 1,039兆円、過去最高更新」人口の高齢化、小子化、国内経済市場は成熟し伸び悩む中、医療や年金など社会保障は膨れ続け、この10年間で国の借金300兆円の増加、主要先進国の中でダントツのワースト1。

数年前イタリアの経済危機の借金比率が120%、我が日本の現在は220%とのこと。社会保険料の引上げ、消費税増税、健康保険料、年金の掛金等、毎年上がって来ている。

しかし、中小企業を中心に給与は上昇してないのに保険料ばかり増加、国民の生活は苦しくなる一方で抜本的な対策を打つことが緊急課題であるとの事。

こういう時代、先のアルコール依存症問題とも関連致しますが、我々酒類卸業者も時代に促した健全な業界として維持発展出来るよう適正な利益を確保し、地域社会に貢献し、酒類業者としての地位を少しでも高めることが出来れば明るい日差しも見えてくるのではないのでしょうか。